

日本医史学雑誌第五十一巻 総目次

総説

三宅 秀とその周辺……………佐々木恭之助……………四九

原著

ラウレンティウスの解剖学書……………澤井 直・坂井建雄……………三

岡田篁所と清末の日中医学交流史料……………梁 永宣・真柳 誠……………二五

葦原検校の足跡……………大浦 宏勝……………五

近世地方藩医における文化活動と医師の教養形成……………土浦藩医辻元順を例として……………瀧澤 利行……………八三

緒方洪庵と添田玄春——西洋医学所頭取役宅の新築をめくって……………深瀬 泰旦……………三七

華岡青洲研究史……………松木 明知……………三五

京都大学整形外科学教室初代教授 松岡道治の事績、業績……………第一報 京都大学整形外科学教室の創立……………廣谷 速人……………三六五

医家合田家の歴史と蔵書……………町泉寿郎・小曾戸洋・天野陽介・花輪壽彦……………五七

近代解剖制度史補遺——『明治四十四年九月屍体二關スル記事 東京醫科大學解剖學教室』の分析から……………香西 豊子……………五九

研究ノート

現代中国の農村社会の変遷における郷村医の形成……………はだしの医者形成と「再生」……………三橋かほり……………五九

『病草紙』制作と後白河法皇の思想……………小山 聡子……………五三

郷土史家 寺石正路の燈下与兒談における明治期の漢洋治療……………松岡尚則・山下幸一……………六五

ひろば……………泉 彪之助……………六三

史料……………フランス人医師マイエのコレラ発生報告について……………生野・姫路地域における事例……………須長 泰一……………一〇七

池田文書の研究 (二十六)……………池田文書研究会……………二二

池田文書の研究 (二十七)……………池田文書研究会……………四一

池田文書の研究 (二十八)……………池田文書研究会……………六五

手塚良斎「医学所御用留」(八)……………深瀬 泰旦……………六五

追悼……………赤堀 昭先生のご逝去を悼む……………鈴木 五郎……………一〇四

評議員 津山直一先生の御逝去を悼む……………蒲原 宏……………四〇

名誉会員 日比野進先生のご逝去を悼む……………高橋 昭……………六四

記事

例会抄録

石原保秀・東亜医学協会旧蔵古医書(日漢研本)の概要

……………小曾戸洋・天野陽介・野澤隆幸・小林健二……………二〇

野口英世の初期の事績について……………森山 徳長……………二三

史的に見る薬学成立の経過と課題

——日本薬史学会創立五十周年に当たって

……………川瀬 清……………二三

齋藤茂吉における性……………岡田 靖雄……………二五

「山崎 佐の錦小路文章」の顛末

……………樫田 義彦……………二七

昭和二十六年のBCG論争

——武見太郎と日本学術会議——

……………渡部 幹夫……………四〇

アーチボルド・ガロッドのパラダイム

——先代謝異常症の歴史……………深瀬 泰旦……………四六

「バージニア・オルソン物語」執筆で得た

GHQ看護改革に関する情報……………大石 杉乃……………四八

大分県公文書館所蔵「昭和十五年監置精神病者に

関する綴」解題……………橋本 明……………四九

ウルソデキシコール酸(UDCA)の発見

……………佐分利保雄……………六〇

矯正給食から窺える庶民日常食の史的観察

……………日野 英子……………六一

明治期の精神病院に於ける看護婦養成について

——府立巢鴨病院の実態から……………澤田 恵子……………六一

黒死病はベストか——黒死病の謎

……………滝上 正……………六三

消息

矢数道明先生顕彰碑建立……………小曾戸 洋……………四三

第十一回国際東アジア科学史学会……………真柳 誠……………六三

Chinese Medicine: A Visual History

(中国医学史図像国際会議)……………真柳 誠……………六五

アジア医学史学会第二回学術大会および谷口賞の案内

……………真柳 誠……………六六

書籍紹介

前田久美江編著「現代医療の原点を探る——百年前の

雑誌「医談」から……………三輪 卓爾……………二六

K・マウラーほか「アルツハイマー その生涯と

アルツハイマー病発見の軌跡……………岡田 靖雄……………二九

荒井保男「ドクトル・シモンズ——横浜医学の

源流を求めて……………大滝 紀雄……………三三

小田泰子「医師ヘボンとその時代」

……………荒井 保男……………三三

溝上國義編「日露戦争従軍記——軍医の陣中日記」

……………助 昭三……………四一

奥沢康正「眼病に効く温泉」

……………鈴木 則子……………四三

壬生町歴史民俗資料館「みぶ蘭学人あらかわる」

……………中西 淳朗……………四四

日本学校保健会編「日本学校保健会八十年史」

……………寺畑 喜朔……………四五

篠田達明『徳川將軍家十五代のカルテ』

杉浦 守邦……………四〇

高島文一著『続 鍼の道——内科医の熟年』

杉浦 守邦……………三〇

栗山茂久・北澤一利編著『近代日本の身体感覚』

瀧澤 利行……………三三

武田科学振興財団杏雨書屋編『宋版 備急絵効方』

真柳 誠……………三五

W・J・ビショップ著、川満富裕訳

小林 晶……………三五

『外科の歴史』

三崎 裕子……………三七

酒井シヅ編 女医吉岡弥生の手紙

『愛と至誠に生きる』

ゲッチンゲン医学古典文庫

下関市立長府図書館(下関文書館)

東京大学薬学図書館内・日本薬学会文庫

医学関係文献目録 平成十五(二〇〇三)年

順天堂大学医史学研究室編……………四六

山川 浩司……………一五

小曾戸 洋……………三

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

深瀬 泰旦……………五〇

第一〇六回 日本医史学会 総会 演題目次

招待講演 I

北里柴三郎と適塾……………芝

招待講演 II

三宅 秀とその周辺……………佐々木恭之助……………四

特別講演

日本漢方の伝統……………花輪 壽彦……………一〇

シンポジウム I 「江戸のモノづくり」における医史学研究

——拡充と越境

1 器物・文献資料総合データベースを用いた

医史学研究の試み……………月澤美代子……………一五

2 岡山県邑久郡中島家史料調査報告(一)

中山学・黒澤学・酒井シヅ……………一六

3 明治期の医療器械商——大阪の白井松之助について

ヴォルフガング ミヒエル……………一七

4 北條家(佐渡市)の薬箱の検討

遠藤次郎・中村輝子……………一八

5 新宮涼庭の薬箱の検討

ヴォルフガング ミヒエル……………一九

6 曲直瀬養安院文書の研究(一)——家系と肖像

ヴォルフガング ミヒエル……………二〇

町泉寿郎・小曾戸洋・花輪壽彦……………二六

- 7 曲直瀬養安院文書の研究(二)——文書の概要(上)
小曾戸洋・友部和弘・町泉寿郎.....二七
- 8 曲直瀬養安院文書の研究(三)——文書の概要(下)
友部和弘・町泉寿郎・小曾戸洋.....二七
- シンポジウムⅡ 人をみる医師を育てる——医学史・医哲
 学を現代の医学教育に生かす
- 1 医学教育の流れ.....福島 統.....二七五
- 2 医のこころを先人の足跡と社会に学ぶ
相川 忠臣.....二七
- 一般演題
- 1 収蔵植林外科書とバレ(一六二七)及びスクレタタス
 (一六五七)との絵図における比較
田中 祐尾.....二八〇
- 2 大江玄仙の栗崎流金瘡外科免許状について
川寫真人・カトリーナシバタ.....二八二
- 3 高岡長崎家の『家方抄』について
 ——宝永期からの蘭方外科医の繁用薬方集——
正橋 剛二.....二八四
- 4 杏蔭齋正骨要訣の校訂者と田謙堂の家系と同書の
 成立年代.....蒲原 宏.....二八六
- 5 「身幹儀」(星野木骨)の制作過程に関する研究
片岡 勝子.....二八八
- 6 「乳巖治験録」をだれが書いたか.....松木 明知.....二九〇
- 7 「革谿医碇」(一八五四)にみる平野重誠の医療観
中村節子・平尾真知子.....二九二
- 8 北里研究所東洋医学総合研究所蔵多紀元堅書き込み
入り「医贖」について.....館野 正美.....二九四
- 9 関宿町桐ヶ作の眼科医 高野敬仲・青木 道夫.....二九六
- 10 南小柿寧一とその家系.....石原 力.....二九八
- 11 江戸時代の「癩」と梅毒.....鈴木 則子.....三〇〇
- 12 江戸幕府の法定伝染病——疱瘡・麻疹・水痘——
川部 裕幸.....三〇二
- 13 日本最古のマラソン競走 安政の遠足(トオアシ)
清水 英一.....三〇四
- 14 ポンペ・ファン・メルデルフォールトの教えた
 近代臨床検査学.....相川忠臣・酒井シヅ.....三〇六
- 15 済生学舎開校前後の川上元治郎の手紙と報告書及び
 当時使われた教科書.....岩崎一・殿崎正明・唐沢信安.....三〇八
- 16 明治一二年に東京府病院が実施した医術開業旧試験
 について.....樋口 輝雄.....三二〇
- 17 格識順天堂医院手術傍観録.....西井 易穂.....三二三
- 18 一八八六年におけるリンド・リチャーズの上海から
 京都への足跡.....岡山寧子・依田和美.....三二四
- 19 小野豊三郎の解剖学ノート.....浦山 きか.....三二六
- 20 私立日本医学校設立者・山根正次の医学教育の失敗
殿崎正明・唐沢信安・岩崎一.....三二八
- 21 「マギー夫人来日」の記事にみられる高木兼寛の
 看護婦観——明治三七年『成医会月報』より——
芳賀佐和子・平尾真智子・蝦名總子.....三三〇
- 22 近代日本におけるコレラの伝播(一)
鈴木 晃仁.....三三三

23	近代日本におけるコレラの伝播 (一)	永島 剛	三四
24	近代日本におけるコレラの伝播 (二)	市川 智生	三六
25	コレラ禍と内務省の広報活動	笠原 英彦	三八
26	ハンセン病および精神病の比較法制・処遇史	岡田 靖雄	三〇
27	朝敵としての癩病	ベイ アレキサンダー	三三
28	細菌グラム染色の本邦における初期の紹介について	会田 恵	三四
29	高峰讓吉いわく、私は適塾生だった	中山 沃	三六
30	京都大学整形外科学講座初代教授 松岡道治先生 の生涯	廣谷 速人	三六
31	医僧・大日方大乘の略伝	中西 淳朗	四〇
32	医学史家・小川政修	佐藤 裕	四二
33	日本医師協会と小川劍三郎	寺畑 喜朝	四四
34	『善那余話』からみたジェンナー画像収集の経緯	深瀬 泰旦	四六
35	道教と中国医学 (第二十五回) 『功過格』	吉元 昭治	四八
36	出土医書に見る「痔」の一考察	吉岡 広記	五〇
37	『明堂』における足三里の主治病証	木場由衣登	五三
38	張文仲の鍼灸について	宮川 隆弘	五四
39	南宋代の体系的脈状記載について	中川 俊之	五六
40	疔瘡に対する松鍼法	上田 善信	五八
41	中国のアヘン問題と岸田吟香の対応	丁 蕾	六〇
42	『日本靈異記』の中の身体に関わる表現	計良 吉則	六三
43	「大同医式」について (一)	後藤 志朗	六四
44	吾妻鏡の鍼灸	寺川 華奈	六六
45	「感冒」疾患名の起源について	木村 丹	六八
46	安西流馬医伝書 (安西流馬医絵巻) 寛正五年 (一四六四)の補遺	松尾 信一	七〇
47	医聖永田徳本——その医術の位置づけとP.A. パラケルススとの対比を中心として	山田英雄・山内一信	七三
48	十五年戦争と日本民族衛生学会 (協会) (その二) ——学会名等をめぐる戦後の論争——	助 昭三	七四
49	昭和十五年の監置精神病患者	橋本 明	七六
50	世界初の人を用いたランダム化比較試験は七三一部隊 によるか?	津谷喜一郎	七八
51	G H Q 文書による占領期のハンセン病関係資料の研究 (第二報・沖縄と大韓民国について)	杉田聡・丸井英二	八〇
52	石川日出鶴丸博士とG H Q 旋風 占領下における 「鍼灸禁止令」事件が後世に与えた影響	奥津 貴子	八三
53	占領期の医療・看護に関する出版物の検閲 (一) ——ブランケ文庫所蔵『看護学雑誌』について		

大石杉乃・喜多加奈子
平尾真智子・芳賀佐和子……………二六四

昭和二六年の結核予防法制定とBCG論争
……………渡部 幹夫……………二六六

精神科作業療法職の専門分化過程の考察(二)
——昭和四〇年の法制定と旧従事者への影響
……………柳田 純子……………二六八

住民による健康増進活動の形成(二)
——専門職による住民支援の方法
……………杉山 章子……………二九〇

ヴェサリウスの父アンドリエスの、皇帝カール五世に
よる嫡出承認書……………泉 彪之助……………二九三

近代初期解剖学書における筋の名称について
……………澤井 直……………二九四

Thomas Willis の Cerebri Anatomie で用いられた神経
解剖学的な観察法の追体験……………門田 永治……………二九六

『解剖学表』(『解体新書』の原著、いわゆる「ターヘル
アナトミア」) 異版の研究——第二報
……………石田 純郎……………二九八

ムーアファイルズ眼科病院の設立について
……………柳澤 波香……………三〇〇

孤高の外科医ギョーム・デュピュイトラン男爵
(一七七七—一八三五)……………小林 晶……………三〇三

コロトコフ音の発生理論……………藤倉 一郎……………三〇四

大江医家史料館の開館について
……………カトリーナ シバタ・川寫真人……………三〇六

65 医史学関係資料の収集・保存・研究
——ドキュメンテーションの観点から事例に
基ついて……………野尻佳与子・青木允夫……………三〇八

66 ヒボクラテスの木・二〇〇五
——文献、インターネットによる情報の収集
……………稻松 孝思……………三一〇

誌上发表

67 『長沙走馬楼三国呉簡・竹簡』と『傷寒論』
……………猪飼 祥夫……………三二二

68 「分等」から「等分」への変遷……………郭 秀梅……………三二四

69 『口歯類要』の治療範囲……………西卷 明彦……………三二六

70 甲賀通元『古今方彙』の検討
……………鈴木達彦・遠藤次郎・中村輝子……………三二八

71 君臣佐使に関する東洞流の認識……………水野 洋子……………三三〇

72 葦原検校の遺跡と木像について——『鍼道発秘』を
著し、没落した木曾家再興を果たした生涯
……………大浦 宏勝……………三三三

73 『日本医譜』に記された脈診による天災予知
……………天野陽介・宮川浩也……………三四〇

74 韓国現存古医籍の特徴……………小林健二・野澤隆幸……………三四四

75 近代期の中国における平民教育運動——定県実験区
における農民教育と衛生……………真柳 誠……………三四六

76 ……三橋かほり……………三三八